

奈良県生協連 2016年4月 NO.100



共生 100号記念 ・・・・・・・・・・・ 1・2	アフリカの医療に携わって・・・・・・・10
共生 100号の振り返り・・・・・・3・4	3.11を忘れない ・・・・・・・ 11
2016年度 奈良県生協連が取り組むこと ・・5	奈良県生活支援サービス・活動連絡会・・ 12
2015年度会員生協役職員研修 · · · · · · · 6	地方消費者グループフォーラム in 和歌山・
食の安全のページ・・・・・・7	「ストップ!迷惑勧誘」 シンポジウム ・・・ 13
環境のページ・・・・・・8	意見書提出・奈良県消費者教育推進計画
おじゃましました~奈良工業高等専門学校	策定内容·····14
生協の巻・・・・・・9	

無生100号記念

奈良県生協連の機関誌が1991年2月創刊以来、今号で100号を迎えました。

1998年4月号からは「生協連ニュース」のままだったタイトルを「共生」に決め、題字もリニューアルし立派なものを書いていただくことができました。奈良県生協連ではそのことば通り、共に生きる人と人同士がつながり互いに認め合いながら私たちの活動をすすめてまいりましたが、100号の節目に、ささえていただいた皆様への感謝の意を込めながら、「共生の眼を通して」県連活動の軌跡を振り返ってみることにいたしました。

奈良県生協連専務 辻 由子





「共生」100号によせて

奈良県生協連機関誌の「共生」が100号を迎えました。

「100」という押しも押されもせぬ数の発行回数が、全国でも遅まきの設立であった県連にとって、重要で重みのあるものとなってきました。県内で活動する全ての生協(当時は5生協)の参加で設立され、小さいながらも、夜間の県立単科短期大学や国立高専生協の設立活動を含め、近年の消費生協支援による医療福祉生協の設立など、特徴のある活動を進めてきた、連携の取れた和気あいあいの生協連として、全国の中でも誇れる存在の中身を、逐一報ずるとともに、表紙を飾る万葉の写真と解説文など、多くの関係者の皆様の支えがきらりと光る機関誌であったのではないかと思います。

これからも、「共生」の名が示す通り、県内の生協はもちろん、全ての消費者市民、協同組合、諸団体、行政の皆様がたと連携協同の活動が進むように、精一杯の広報活動が続けられますよう、事務局の奮闘と皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

奈良県生協連会長 瀧川 潔

奈良県生協連機関誌「共生」の100号目の発行、おめでとうございます。

「全国で府県連がないのは奈良と、あと二つ三つだけですよ、一緒にやりましょう!」と、当時事務局だった瀧川さんが、人懐っこい笑顔で目をくりくりさせながら話しかけてきた日の事は忘れられません。あの頃奈良女生協では「近隣の他大学生協と連帯し、それぞれの独自性を尊重しながら、一緒にやることで生まれるパワーを単協へ」と大学生協京都事業連合への加盟を検討していましたので、地域での他生協との連帯と言う話もすんなりと入ってきました。生協の成り立ち、活動の中身、組合員の構成や規模などに違いはありましたが、まずはお互いを知り、得意分野を生かし、奈良県らしい生協活動をゆっくり確実に広げていきましょう、と県連設立準備会の中で何度も話をしたのを覚えています。

「共生」や県連の活動を紹介する様々なパンフレットを読むと、あのとき蒔かれた種が25年の歳月をかけて、奈良の地にしっかりと根をはり、たくさんの枝葉を伸ばしてきているのだなぁと実感し、感慨深いものがあります。これからも益々のご活躍を期待しています。

奈良女子大生協元専務 横山 史

皆さんに支えて頂いた年月です

2016年新入生を迎える準備に入っています。

「継続は力」と言います。新しい年を迎える度に創意工夫を重ね、組合員の皆さんに満足をしてもらうのは大変な力仕事です。

「奈良女生の食生活を支えていく」方針を掲げて16年余り、今年は大学の情報誌やマスコミに食堂の紹介が次々とされ、利用する方で賑わっています。2000年にならコープのお母さん方の大きな力添えで、治道トマトの取り扱いが始まり奈良女でも地産地消の考え方が広まりました。当時、学生委員(WINDY)の要望をうけて共に行動をした活動です。この事は同時に奈良女生協の食を考える大きな足掛かりの一歩になり現在に至っています。組合員の皆さんと、回りの方の信頼と共助の気持ちがあっての生協活動です。支えて頂いたというのが、率直な感じです。

ありがとうございました。今後共よろしくお願い 致します。

奈良女子大学生協嘱託職員 屋根二九美



共生 NO28 1998年4月号 より (原文)

生協連ニュースタイトル文字の変更と題字について

「共生」は、人間と自然、現在の私達と子供達、農山村と都市、生産者と消費者、健常者と障害者、経済先進国と経済難民の国々、大企業と零細・中小企業、経済活動と地域の生活、世代間の共生、異文化との共生、人を取り巻くあらゆる関係を持ちたいという思いを込めました。21世紀が征服の論理、競争の論理で行き着くところまで行くのか、共存の論理、共生の論理で「持続可能な社会をつくる」のか、岐路に立っているように思われます。

題字は、奈良教育大学教育学部美術教育(書道)宮崎彰夫教授にご協力いただきました。(雅号 葵光)

編集後記

タイトル文字「共生」が多くの人の支えで誕生しました。人と 言う字はお互いの支えがないと存在しないように、二十一世紀 の社会が支えあって存在しますように。(俊)

私が、奈良の生協へ赴任したのは 1992 年 5 月末のことでした。当時は、ならコープ、奈良県労働者共済生協、おやさと生協、奈良女子大学生協、奈良教育大学生協の5つの生協で県連が構成されていました。おやさと生協さんは、天理教の学校の生徒さんにお米を供給するためにつくられた生協ということで、奈良でももっとも歴史のある生協でした。その活動に触れたとき、戦後生活協同組合が生まれた意味とその活動の奥深さを感じたものです。また当時「天理大学にも生協できたらいいですね」と話していたのを懐かしく思います。その後、奈良県立大学生協、奈良工業高等専門学校生協、樟蔭女子短期大学生協(現大阪樟蔭女子大学生協)と大学生協が続けて設立され、大学生協グループが奈良県連の生協の過半数を占めることになり、県連の企画でも、学生たちが大いに活躍するという場面が増えてきました。今もその流れは変わっていないようですが、学生達にとって自分たちの取り組みを大人の前でしっかり発表する機会はとても貴重で、彼らにとって大きな成長の場になっているのではないかと思います。とりわけ奈良工業高等専門学校生協は、全国ではじめて高専にできた生協ということで、経営的には楽ではありませんでしたが、いまや全国5箇所にひろがり、今も設立にあたってご尽力された、皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

奈良は京都よりも歴史のある古都であり、街角のいたるところに本当の"いにしえ"があります。そんなよさを活かす街づくりに、奈良県連に結集する役職員のみなさまが、積極的に関わられることを期待しています。

疋田 利政 (奈良教育大学生協 在籍 1992/5~1999/5)









「共生」100号発行おめでとうございます。

奈良県生協連には、コープ自然派奈良から2007年~2015年まで8年間理事として関わらせて頂きました。県連役員や事務局の皆様には、大変お世話になりました。会員生協が特徴を活かし、規模の大小・歴史の長短に関わらず尊重しながら協働して活動する県連の姿は全国でも随一と感じています。コープ自然派では、ピースアクション、奈良県医療福祉生協、なら消費者ねっと等、単協では取り組みにくい課題を一緒に活動させて頂き、活動の幅を拡げることができています。「共生」はそんな県内の生協の姿を丁寧に取材・発信されおり、私は毎号届くのを楽しみにしていました。

戦後70年を迎え人口減少が進む中、社会の仕組みが大きく変わろうとしています。持続可能な社会に向けて生協の課題は多岐にわたり重要度 も増しています。私はコープ自然派兵庫に異動しましたが、同じ生協の仲間として、皆さんと一緒に課題解決に一層取り組みたいと思っています。

奈良県生協連さんの益々のご発展をお祈り申し上げます。

コープ自然派兵庫専務理事 前田陽-

生 共

創刊当時、生協の「基本 的価値」が論議され1991 年にはシンポジウム「日本 の生協における基本的価 値」が開催されました。

奈良県生協大会で100 号を振り返ってみたいと 思います。

生協大会はその時代背 景から見えてくる「くらし のテーマを深める場」「交 流そして発信する場」と して毎年開催しています。



第 1 回 1990年11月11日 講演「わたしと生協運動」永谷晴子氏

第 2 回 1991年7月6日 講演「わたしたちの生活と自然環境」清水晃氏

1992年7月4日 第 3 回 講演「協同組合の基本的価値」大谷正夫氏

1993年7月5日 パネルディスカッション「福祉にチャレンジ」 第 4 回

第 5 回 1994年7月2日 パネルディスカッション「奈良県におけるリサイクル社会の創造」

第6回 1995年7月15日 講演「ICA100周年協同組合原則はどう変わる」竹内哲夫氏

第7回 1997年2月1日 「協同の力をすみずみの町へ」

第8回 1998年2月14日 講演「南極の自然と環境問題」高田将志氏

第9回 1998年10月31日 生協法施行50周年記念講演「21世紀の生協運動」竹本成徳氏

第10回 共生コンサート こんぺいとう 1999年10月30日

第11回 2000年10月28日 講演「健康を守る食生活」豊田歯科医院長 豊田裕章氏

2001年10月27日 映画「ダイオキシンの夏」 第12回

第13回 2002年10月26日 講演「食の安全を確保するために」雪印乳業(株)外部取締役 日和佐信子氏

第14回 2003年10月25日 講演「消費者政策のトレンドと消費者団体消費者の役割」 坂東俊矢氏

2004年10月30日 講演「年金とライフプランを考える」県金融広報アドバイザー 横林清子氏 第15回

第16回 2005年10月16日 講演「語ろう平和、考えよう世界の中での日本の役割」筑紫哲也氏

講演「食と健康」全国調理協会会長 福井幸男氏 第17回 2006年11月25日

第18回 2007年12月1日 講演「食育」農林水産省奈良農政事務所 新庄敏子氏

第19回 2008年11月21日 講演「地球温暖化の実態と解決に向けた課題」浅岡美恵氏

第20回 2009年11月15日 講演「賀川豊彦を知っていますか?」神戸大学名誉教授 野尻武敏氏

第21回 2010年11月20日 奈良県生活協同組合連合会 20 周年記念講演 荒井正吾奈良県知事

第22回 2012年12月3日 「核兵器のない平和な世界をめざして ~秋葉忠利前広島市長と語ろう~」

「ともにつくる うつくしき大和」復興・地域活性化・生協の役割 河瀬直美氏・更谷慈禧十津川村長 第23回 2013年11月10日

第24回 2014年 1 月 18日 「地域共生社会を求めて~森、水、エネルギーそしてひとのきずな~」生協総研 栗本昭氏

第25回 2015年2月7日 「共生社会をめざして~森・水・エネルギー・ひとのきずな part2」真庭市 太田昇市長

第26回 2015年11月7日 「~戦後・被爆70年 核兵器のない世界をめざして私たちができること~」被団協 田中熙巳氏

宗良思望遊び会を開催しました!

第17回奈良県生協大会を11月25日奈良県新会会 安で開催し、会員生協和合員約30名が参加しました。 伊利でこの時期、生協強化月間と連動して、奈良県の生物 協活動を広くアビールすると共に、会日生協の日発活 動を目的に開催しています。今回、「食と健康」をデ 加工で、全国国理理協協会会長、福井寺別氏を講師に基 一マに、全国国理理協協会会長、福井寺別氏を講師に基 一マに、全国国理理協協会会長、福井寺別氏を講師に基 一次に、会会員生協の「食」に関わ る実践事例を報告・交流を行いました。

□ なのに 奈良県生活協同組合連合会 逸見会長が挨拶を行 が、来質として、公務で多忙な中、景徳康安全局 食品・ 生活安全課主査田中裕之様に臨密略り、ご抜拶を賜り ました。



□ 動師師用 食べ方や料理の仕方含めた料理に込められた料理人 の思いで食材の尊さと、後い切ら意味について、軽砂 を添りて会算参加者を引き付け、食育における家庭の 投資の意要性について講演いただきました。





3)「ならコープ食育プログラム」 ならコープ 理事・中野素子氏(左)、磁臨純子氏(右) な事パランスガイドによる食事パランスについて の際発活動を展開。目で見て分かる工夫に理解が









第19回 窓良県理協公会



11月29日会良界婦人会館において開催、会員 生協及び環境関連関体から74名が参加しました。 はじめに、サークル「おてんとさん」が「MAKE THE RULU キャラクター「シロペエ」のパ フォーマンスと環境クイズで会場を鑑り上げ、基代 表が最新情報を父え講演を行いました。また、会 見生協から3日がか会長表が活動や実践報告を行 ない、それぞれ違った拠点での取組みは参加者へ の新かと始を必要ました。 の刺激と空波を深めました

~ 「 地球温暖化の実態と解決に向けた課題 」について ・

- 1 地球温敏化の実際と解表に向けた課題 」について ~ 生態系含かに乗換の変化の現実と今後及び埋みの動きと課題について講演にかだき、参加者の環境問題への認識を活めました。 同氏は、環境先進 ほとの比較で日本の収組み必定れを指摘、回路的はは09年に開催される COPI5コペンハーゲン合意が重要になるので、政治が6っと関与すべき と語された。そのからに京都議会書も19末期回り目標(99年と16条制減) の達成と上昇温度では、練の低炭素料金ズくりを目指す環境関連結制定が 素要で「MAKE THE RULU」キャンペーンへの協力要請とともに、 子供たちの未来に温暖化のない世界を残そうと呼びかけました。

[会長當表彰団体活動報告]



11月15日、なら100年会館において「質用農産を知っていますか?〜新たな共生社会をめざして、」が開催され、400人を限える参加市で会構はは江海歌になりました。
1909年、質用農産が神戸にあるスタム街で活動を開始して100年
にあたる今年、金田で埋かな行動が行われていますが、発息限でも質からを関
自産企の理を受引さ載でかかりのある部件を目的体、発息展表度結同組 の企業の理を受引さ載でかかりのある部件を目的体、発息展表度結同組 合金の理を受引き載でかかりのある部件を目的体、発息展表信同組 合金の理を受引き載でかかりのある部件を目的体、発息展表信同組 合中央会、発息県森林町造合会会、発息県生活局所組合金会会会、発息 外配へ未栄死度止化機体(四周支持会長支柱、馬見の特保管側、 高利用来行業商具成の 高利用報金分)と生満大会の共催で開催されました。

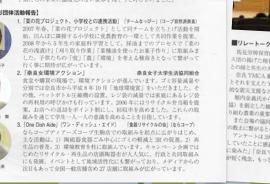


***人が人が人がよります。 | 日記念調演

■記念譲渡 コープこうべ協同学売度率長で、今回73年末か1:沿 取された「女変の政治経済学(質用患産器)の監修を された野民武敏氏から、質用豊彦の社会活動を、戦争 と世界思復しいう時代容器、考えの指針となった三つの 性(信仰と上述書き、人格と女変・埋心論)、そして戦 東連邦や協同組合運動とと残したものをわかりやすくお 高にいただきました。また、リレートークの後、3人の お話に触れて、奈食で引き継がている協同・3人の お話に触れて、奈食で引き継がている協同・2位 精神の大切さ、世界で高く評価をれた質用の理念を今 の時代とそ受け継ぐことが重要と締めくられました。

■リレートークでは

■リレートークでは
馬足労保保育限の前限長宮原直接氏から、質用の下に集まったイエスの場所とから高齢。 18.5%



第 4 回奈良県生協大会

福祉にチャレンジ

 \sim 心ゆたかな協同のあるくらしを、奈良県のすみずみに \sim

7月5日(月)中小企業会館で10:90から 88人の参加で第4日奈良県生協大会を行いま

東省としての食材製生部社会報酬業の出版 図長の生態への限ましのあいまつをいたださ ました。中村から設けた、職体・交性産品の 起きサイク・用量の部の前が割割をして、 職材サークル「あかて多くくらよ」関連サー フル「おしてまちの歌」に会談を書りま した。賃貸をしても万円 (職化エキャンジ)をテーマに対るルディ ありまりまりました。付まりました。 同名選末氏(会談様とランティア議論 会談、場合の教育権) ・柱具大原廷(会談表別表) 来賓として奈良県民生郎社会福祉課の出山

・代は日本人に、(のはおいのサンティアの中の場合 会員、原因の作業代象) ・ 和助や系式(18月)の意見及計会推進 ・ 必要条式(18月)の意見及計会推進 ・ 必要条式(18月)の意見及計会推進 ・ 必要を表する。 ・ 大心助財化(公共の社会推進)のである。 ・ 大心助財化(公共の社会推進) 近十6名の信息性で加減に動をすすってお のれるサンキンラーデーが続いました。 別の有であるコーディキーテーを行い 記述系統の可能的意思。会場からの3名の質問 を受けてのパネルデスカッション、今後の話



知気ないない時間でないつ知問問の中で、行 いました。原整文にも「将来の福祉について お互いの考えを出され、とても行意義な話し 合いで資かったと思います。」と書かれてい

協の福祉活動を発展させよう!」のアピール を小林理事がよみあげ全員で確認しました。



5周年記念奈良県生協大会

7月15日(土)10時~14時







同組合原則についての学習会を行いました。





奈良県第3回協同組合デーのつどい

7月3日(月)169~179 方6名を含め、84名の参加者で行われました



表、寸劇を披露しました。



第13回奈良県生協大会

THE RESIDENCE OF THE PARTY OF T



第日会長のおいさつ これまで美国は発品の資金 の高点づくりの記載するよう と対している。 風の回転 は

第3回奈良県生協大会













『ともにつくる うつくしき大和』 ~復興・地域活性化・生協の役割~



11月10日、なら100平台館中ホールにて、2012日時期回標を定金 会員単生版大会 「質量産業さんと十連 同月長が返る」とはいってもうつてしま大和」「全職化」、生場の総合材や市成など310名が参加しました。 来質の商品報用で、北京党企業課長、森藤勝彦建から、実際を譲まました。また、国際協同報合作の事で もあり、現内の名協同報合からもご集盛をいただきました。









クスペードは11人との「クタかり」「つなてこと」の人間を参加しました。
11月25日「FM 家庭 ー 5 : a t i o a j で D j の同葉産業さんが、生落大会に関して約20分類程度
は750ような内容でお扱しされました。
11月10日に100年金融度があった。その議議会に始加されたから手紙が来た。「国議会が集めった
らから、住事をしていてもからかたかくなったい・環議会だった」とのこと。以下、関連しばされた
労働さんのお話。
議議会は、生活が生息していたが、「つかがり」を大等にしているようだった。十津川村では最しい場場
会別とかった。とはかけまさんが、「つかがり」を大等にしているようだった。十津川村では最しい場場
のうしそのことはってりためかるもように思えた。十津川村では長しく山中県
かり上そのことはってりためかるもように思えた。十津川村では長しく山中県
かり上そのことはってりためか。日ではりているといっているした。まの付まさくはすていくとのした。資
大学社が個人とグロタンティアでしているが、元気をもらっているといっているした。通常語のおじさんや
無があるからたと思う。





奈良県生協連の事務所の壁 に約1m×1mの大きなパッ チワークのタペストリーがあ ります。「なら生協連ニュース NO12 (98.10.20)」号に~ 平和の願いを込めて…~と題 して『平和を守り、育てる人 間の鎖、特に女性の力を強調 したくてイニシアルを入れ、 右下には忘れてはならない戦 争、火の海となった町を表し た』と掲載されていました。

(5) 2016年4月号

2016 年度 奈良県生協連が取り組むこと

昨年はTPP大筋合意やCOP21 (気候変動枠組条約締約国会議) でのパリ協定の採択、国内では安保法制の成立、医療・介護制度の改定などわたしたちのくらしをとりまく大きな変化がいくつもありました。 そのような中、たすけあいや学びあいをすすめる生活協同組合の事業と活動がますます大切なものになっていきます。 奈良県生協連と会員生協は地域社会の一員として関連諸団体・行政の皆様とも連携・協力しながら 2016 年度も様々な取り組みをすすめてまいります。

の協同組合の理念を広げ協同の心が息づく取り組みをすずめます

- ●奈良県協同組合連絡協議会を通し、県内の協同 組合間協同を強め、協同組合の健全な発展に資 する取り組みをすすめます。
- ●生協・行政協議会はじめとする意見交換の実施 など、行政とのコミュニケーションを図ります。
- ●東日本大震災を忘れず息の長い復興支援に参加します。会員生協・諸団体とともに福島の子ども保養プロジェクトなどの取組みに参加するとともに、被災地の実情を学び交流する機会をつくります。
- ●協同組合理念の学びの場つくりをすすめます。

②よりよい地域づくりの活動に参加します

- ●森・水・エネルギー・人とくらしをつなぐ「地域共生社会」を目指す取り組みをすすめます。 吉野共生プロジェクトに参加し奈良県南部東部の活性化を応援します。県と地元自治体がすすめる地域活性化イベントに引き続き協力します。
- ●消費者市民社会の形成をめざし、NPO法人な ら消費者ねっと及び近畿圏や全国の消費者団体 と連携し、消費者教育や意識啓発、消費者政策 にかかわる意見発信などに取り組みます。
- ●住みなれた地域で安心してくらすための取り組み をすすめます。奈良県社会福祉協議会等諸団体と 生協などで立ち上げた「奈良県生活支援サービス・ 活動連絡会」に引き続きかかわり、住民同士のさ さえあい活動活性化のための交流に参加します。
- ●再生可能エネルギーを通した地域づくりを学び、考え交流する場づくりをすすめます。県内の再生可能 エネルギーをすすめる市民活動を応援し、学習講演会や講座、施設見学会企画などに協力します。

図くらしをとりまく諸課題を学び考える場をつくります

- ●食の安全・安心の取り組みとして、食の安全懇談会を開催し、消費者をとりまく食品安全の現状を学びます。また、近畿地区生協と近畿農政局との懇談会など、食の安全に関するリスクコミュニケーションや学習会に積極的に参加して意見交換します。
- ●平和と核兵器廃絶のとりくみでは、ピースアクション in なら 2016 を開催し多くの人と平和への願いを共有 します。また日本被団協設立 60 年にあたり、被爆の 実相と運動の歴史を学びます。被爆者の高齢化がす すむ中で被爆体験を聴く機会を大切にするとともに、 奈良県在住の被爆者のつながりをサポートします。
- ●多くの人が健康に関心を持つ機会をふやすため 奈良県医療福祉生協と協力して「健康チャレン ジ」の取り組みを継続して実施します。奈良県 医療福祉生協による健診推進や健康チェックな ど健康づくりの活動や大学生協の食生活相談会 など、会員生協による健康と食生活の取り組み を応援します。
- ●社会保障、TPP合意と農業問題、公共料金、 環境問題など幅広い社会的諸課題について、近 隣諸団体とも連携しながら学習と情報提供に努 めます。

4年19日本語の活動交流と連帯をすすめます

- ●奈良県医療福祉生協の事業安定化を応援します。
- ●会員生協役職員研修会を開催し、会員の活動指 針に役立てます。
- ●奈良地区大学生協部会への参加などを通しコミュニケーションを図ります。
- ●生協組合員理事交流会を引き続き実行委員会形 式で実施します。
- ●活動助成金を継続し、会員生協の「くらしづく り・地域づくり」にむけた多様な活動を応援し ます。

2016年4月号 (6)

2015 年度会員生協役職員研修

浜岡政好先生講演会を開催しました

=超高齢社会における生協の可能性を考える=

3月10日、奈良県生協連研修会を開催し、会員生協役職員31名が参加しました。10年後日本は超高齢社会となり、誰もが安心して生活するには様々な支えのしくみが大切になるといわれています。生活協同組合には何ができるのかその役割と可能性について、高齢化や地域福祉の問題に詳しい佛教大学名誉教授でくらしと協同の研究所理事の浜岡政好先生に講演をお願いしました。



浜岡先生の講演より =抜粋=

◆ 2025 年問題に対応した事業・活動の再構築を

団塊世代が75歳を超える2025年、日本は超高齢社会となり地域のくらしや社会環境が激変します。先の話ではなく10年後に迫っています。姫路医療生協をはじめ医療生協ではすでにその変化に焦点を当てて事業と活動を組み替えつつありますが、地域購買生協においても安心してくらせるまちづくりへかかわっていく事業と活動の再構築が必要です。企業は2025年を元気な高齢者マーケットの峠ととらえ稼ぐことを狙っていますが、2025年以降も生協は人の暮らしを支え続けないといけません。福祉領域の充実とともに購買を利用し続けられるための支えを考えることも必要です。

◆生協は「安心して暮らせるまちづくり」の重要なアクター

宅配・店舗や組合員の活動は、地域包括ケアの土台をなす生活インフラです。これをユニバーサル化して、 そこに医療や介護の専門サービスを加えることで地域包括ケアが進展していきます。生協の特色を活かした総 合的なサポート力の発揮が求められています。

◆具体的な暮らしと社会の変化とは

2025年には後期高齢者比率が増え、少子化と高齢者の多死、人口減が進みます。単身高齢者世帯の増加と世帯規模の縮小化は奈良県でもその傾向が顕著であり地域差を伴って進行していきます。家族機能は縮小し消費生活も変容、配慮の必要な高齢者の割合が増加します。公共交通や慣れたお店、親しい人など、今まであったものがなくなり、車の運転や家事などできていたことができなくなる人が増えます。健常者モデルの社会システムが機能不全となり「困りごと」が増大します。こうした変化は同時に、高齢者ばかりでなく子育て層や若年層にもサポートが必要な状況をもたらしています。

◆超高齢社会仕様への取組みにむけて

生協が持っている地域の生活インフラを「超高齢社会仕様」へバージョンアップし、組合員や地域住民の「困りごと」に切れ目なく対応できる事業と活動を創出していく必要があります。生協しまねの有償ボランティア「おたがいさま」やコープこうべの「くらしのサポート」などがその事例。そして困りごと解決の担い手をつくること、そのためには地域の歴史や住民のくらし、地域資源を知り、地域に愛着を持って、多様なアクターとのネットワークを構築することが課題となります。また事業の最前線にいる職員の力量アップ、協同組合としての位置づけをしっかりと抑えることが重要です。

参加者アンケートより

- ○「組合員のくらしをよくする」→生協が地域を支えていく。積み重ねた歴史の力を、これからどう活かすか ……視野を広げないといけないと思いました。
- ○安心してくらし続けられるよう力を注ぎたいと思いました。みんなで考えみんなの力を寄せ合って……男性 の居場所についても気になりました。
- ○福祉部門としてパーツパーツではなく総体として考えると行政との関係、いろいろ考えさせられることが多かったです。

(7) 2016 年 4 月号



平成27年度

第2回 奈良県食品安全·安心懇話会



3月11日、奈良県文化会館にて今年度最後の奈良 県食品安全・安心懇話会が開催されました。奈良県 生協連の会員生協であるならコープ理事長の森宏之 氏が懇話会委員(流通業代表)として、また、なら コープ組合員理事の紙森美保氏が公募委員として参 加しています。

平成28年度奈良県食品衛生監視指導計画(案)に対する県民からの意見と対応について、話し合われました。また、奈良県HACCP自主衛生管理認証制度(ならハサップ)、平成27年度リスクコミュニケーション「ジュニア食品安全ゼミナール」開催結果などが報告されました。懇話会委員からの提案(『ならハサップ』の普及推進、国のHACCP導入段階的義務化について、廃棄カツ不正転売事件にかかる奈良県への影響、食品の生産過剰と報道、食品標準成分表の改訂など)が出され、食の安全に関する情報提供および回答が関係課より説明があり、意見交換が行われました。

平成 28 年度 奈良県食品衛生監視指導計画案 に対する意見書を提出しました

平成28年度奈良県食品衛生監視指導計画案に対するパブリックコメントが1月29日から2月26日まで募集され、奈良県生協連は以下の点で意見書を提出しました。

- ①冬の食中毒発生防止対策に関する啓発強化
- ②食品表示法施行に伴う適切な食品表示の監 視指導の体制の確保および消費者への情報 提供の要望
- ③奈良県HACCP自主衛生管理認証制度の 進捗および県民への周知啓発の強化の要望
- ④県民とのリスクコミュニケーションの要望 (小規模単位で若い世代への意見交換の場 の設定を)

なら食に関するリスクコミュニケーション 食品の表示から考える食の安全 〜食品表示からわかること〜 主催: 奈良県 共催: 奈良市

2月24日奈良市西部会館学園前ホールに て、森田満樹氏(消費生活コンサルタント) の食品表示に関する講演会がありました。

この講演会は、奈良県の食に関するリスクコミュニケーションと位置付けられています。「食品の表示が価格や消費期限や商品名以外は、あまり見られていない」と講師の森田さんから指摘。食品表示の目的や、2015年4月からスタートした食品表示法の変更点が説明されました。

変更点は、アレルギー表示が詳しくなり、どこから食品添加物かが一目でわかるようになったこと、どこで製造したかわかりやすくなったこと、栄養成分表示が義務化され、食塩相当量になりわかりやすくなったことなどです。

健康食品は、医薬品ではなく、過剰摂取 や医薬品との併用による健康被害などの問題点があり、健康食品による健康被害の未 然防止が課題であるとのこと。また、2015 年4月からスタートした機能性表示食品は、 保健機能食品(栄養機能食品、特定保健用 食品)の一つになりましたが、届出制であり 届出情報が難しく、一般消費者には理解し がたいものです。しかし、科学的根拠情報 は開示されているので専門家の眼を通して 活用できます。全ての保健機能食品に義務 付けられている表示は『食生活は、主食、 主菜、副菜を基本に食事バランスを』という ことであり、消費者には表示を読み解く力(リ テラシー)が求められているとのことでした。

「うまい宣伝に乗せられずに、まずは、表示の意味から知りましょう」と呼びかけられました。

2016年4月号 (8)

環境のページ

講演会「COP21報告、パリ協定の意義と日本の課題」

主催:奈良県生協連

3月15日、奈良県文化会館にて、講演会「COP21報告、パリ協定の意義と 日本の課題」を開催し会員生協組合員と市民30名が参加しました。

講師は、国際交渉に詳しい、認定NPO法人地球環境市民会議(CASA)専務理事の早川光俊さん。昨年末フランスで開かれた気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)の様子や、気候変動の国際交渉の詳しい経過説明があり、困難の末に合意された「パリ協定」の意義と日本の課題について学ぶ機会となりました。

1992年の気候変動枠組条約、1997年の京都議定書に続き、パリ協定は法的拘束力を持ちます。「今世紀後半に温室効果ガス排出量と吸収量を一致させること」が記載されており、「今世紀後半には温室効果ガス排出実質ゼロ」の方向性を世界が合意したことになります。石炭火力発電の比率を大きく見積もった現在の日本の「長期エネルギー需給見通し」から、日本は先進国の中でも突出して再生可能エネルギーに消極的な状況にあることを指摘されました。このような中で、市民・消費者こそ環境問題解決の鍵を握ると呼びかけられました。発送電分離が本当に可能か、放射性廃棄物などの環境負荷の内部費用化が必要なことや、パリ協定についての日本企業の受け止めについて質疑応答が活発になされ、その後、新年度から施行される「奈良県環境総合計画(2016~2020)」について、奈良県環境政策課の芳川一宏係長から報告がありました。



講師の早川光俊さん



奈良県環境総合計画を 報告する芳川一宏さん



質問する参加者

講演会「電力システム改革と再生可能エネルギー ~市民が地域からできること~」

主催:NPO法人サークルおてんとさん 共催:奈良県生協連

2月6日、奈良商工会議所にて、電力システム改革に関する講演会が開催されました。講師は高橋洋さん(都留文科大学教授)。電力システム改革の概要、システム改革の進捗状況、欧州の電力システム改革と自然エネルギー、地域エネルギー事業の可能性、日本の再生可能エネルギーの展望などを大変わかりやすくお話していただき、会場から出された多くの質問にも回答していただきました。県議会議員や市議会議員、県や市の行政担当者、NPO、生協関係者、市民など様々な立場の方91名が参加され、関心の高さがうかがえました。



講師の高橋洋さん



会場は定員いっぱいになりました

岡山県西粟倉村に見学研修



にしあわくらおひさま発電所 (村のコンベンションホール屋根)

主催:(一社)地域未来エネルギー奈良

共催:奈良県生協連

3月4日~5日、(一社) 地域未来エネルギー奈良主催の「自然エネルギー学校・なら2015 (第4回)」が開催され、受講者とスタッフ計20名で、一泊二日の西粟倉村に見学研修に行きました。西粟倉村による地域の活性化をかけた再生可能エネルギー利用の現場見学やお話を聞きました。小水力発電(290 kW)、森林組合での薪製造、薪ボイラー導入の黄金泉、NPOと村との協働事業である「にしあわくらおひさま発電所」などを見学させていただき、受講者とスタッフ、村役場の担当者や岡山のNPOの方とも交流を深めました。

(9) 2016年4月号

おじゃましました ~奈良工業高等専門学校生協の巻~



×



奈良高専生協の理事や学生委員や職員が集まって「生協を語る会」を開催するとお聞きし、3月11日の夕方、奈良高専生協食堂におじゃましました。奈良高専生協は2016度設立20周年を迎えます。

◆生協を語る会プログラム◆

- ・小柴理事長あいさつ
- ・2015 年度総括& 2016 年度に向けて
- ・他生協 店舗見学&訪問報告 同好会次年度会長 笹治くん
- ・グループディスカッション 20 周年○○しよう!!
- ・発表
- ・まとめ

同好会会長 黒田くん 専務理事 児玉謙司講師

次にグループディスカッション

[20 周年〇〇しよう!!]

3つのグループに分かれ、20年前の 背景を教えてもらって、やりたい企 画を話し合いました。

20年前は…アトランタ五輪、原爆ドームが世界遺産に、ルーズソックス、アムラーがはやった。ポケモン、コナンのアニメ、たまごっちも20周年

20周年を盛り上げる企画立案をして具体化していきたいとのこと。

7月または 10月に実施予定。 楽しみですね。

生協を語る会

「受信型から発信型へ」 変われたか?!

奈良高専生協の先生5名、理事2名、スタッフ7名、学生15名計29名が集まりました。店長の山原縁さんの進行で始まり、小柴理事長より、理事会だけでは生協をゆっくり語ることができないので、この会で語り合いたいとあいさつ。山原さんから、昨年の「生協を語る会」で確認したことを覚えていますか?と参加されているみなさんに問いかけがあり、5~6人の手が挙がりました。キーワードをもとにふりかえりました。

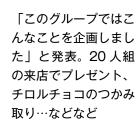
2015年度のキーワードは「変化」。さて、どう変わるのか。「受信型から発信型に」ということが出されていたそうです。①組合員を増やす②健康と安全に取り組む③学び成長し続けることが3本柱。

利用客数は△、組合員活動は○と山原さんは評価。 店舗の課題があげられて、「キチンと管理して赤字に せず、安定した黒字体質をつくる初年度に」と予算作 成の考え方を話されていました。

その後、他生協の店舗を見学した学生委員会新年度会長の笹治君から①冊子作り②ひとことカード推進③ポップづくり④ツイッター促進⑤弁当について、見学した事を踏まえて次年度の計画を話されていました。



「奈良女子大生協、奈良教育大生協のお店や食堂を見てきて、奈良高専生協に活かせる改善点を見つけてきました」と笹治さん





















2016 年 4 月号 (10)

~アフリカの医療に携わって~

田淵幸一郎先生講演会を開催

主催:奈良県医療福祉生協

共催:奈良県生協連

奈良県医療福祉生協のみみなし診療所で、木曜日と土曜日の診療を担当していただいている田淵幸一郎先生による講演会を2月27日コープみみなしで開催しました。



「アフリカの医療に携わって〜ザンビアの医療環境・日本の医療環境から見えること〜」と題して行われたご講演には、診療所で知ったという患者さんや委員会メンバー、手配りさん、地域の方など 60 人が参加、田淵先生のお話に興味深く聞き入りました。

田淵先生は病院勤務の傍ら、徳島にある国際協力特定非営利活動法人TICO(ティコ)でアフリカ・アジアの人々の保健医療・農村開発などを支援する活動をされています。



アフリカでは、乳幼児や5歳未満の幼児の死亡率、また出産時における母親の死亡率がとても高い現状があります。行き届いていない保健・医療環境、知識不足、未整備な教育、社会的な慣習も妨げとなって、地域住民の暮らしはずいぶん立ち遅れているそうです。

ザンビアの首都から約100km、チサンバ郡に27村からなるモンボシという地域があります。ここでTICOが「診療所の開設、地域住民の健康づくり」をめざして2007年に立ち上げたプロジェクトの活動に田淵先生は携わられました。先生が資材調達から関わ

り、モンボシ診療所ができたのは2009年。それまで人々は病気になったら、約30キロ離れたところにある診療所に往復歩いて診察を受けに行くのが当たり前だったというお話には驚きました。

やがて、当初めざした地域の住民による住民保健委員会ができ、医療補助や書類の整理などのサポートをこの無償ボランティアが行うようになり、母親への教育や栄養改善活動もすすみ、モンボシ診療所ができる前とでは格段の成果が上がっているとのことでした。

先生はいいます。「私たちは、子どもたちのために学校の屋根の寄付や医療環境の整備を支援してきました。そしてそれらを現地の厚労省に引き渡し、地域の人々が自ら継続して利用できるように研修などの支援もしています。日本人がいなくなっても自分たちで運営していける、このような持続可能な支援こそが住民への本当の意味での支援になるのです。」

奈良県医療福祉生協の設立趣意書にある「誰もが等しく、住み慣れた地域ですこやかに暮らし続けるために、人々が学びあい、教えあい、地域づくり、健康づくりをすることの大切さは奈良でもアフリカでも同じです」と重ねて先生はいわれました。

限られた保健医療環境のザンビア、一方、医療機関、情報、技術、何もかもがあふれるほどの日本…果たして、どちらが本当に満足できる医療なのか、改めて考えさせられたご講演でした。

第4回 奈良県医療福祉生活協同組合 みんなで楽しく創立祭

3月27日250名参加の中、みみなし診療所生協ホール・西駐車場で創立祭が開催されました。生協ホールでは子どもシアター(ペープサート・パネルシアター・手遊び)や折り紙や毛糸・フェルトなどを使った小物づくりコーナー。西駐車場では各委員会、団体の模擬店が開催され、温かい食事やスイーツが販売されました。奈良県生協連も奈良県医療福祉生協と取り組んでいる「健康チャ



レンジ」を実施、大人32人・子ども18人合計50人の参加がありました。またあいにくの空模様の中、歴史の語り部・畑 修次氏と一緒に歴史ウォーキングも開催され楽しい一日となりました。

2016年4月号

2016年 3月 4日

3.11を忘れない・・

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

~ひとの復興~ 福島から仙台へ、そしていま

仙台に避難して来て4年以上経つひと、最近避難して きたばかりのひと、月の半分は福島、半分は仙台で暮ら すひと、夫の転勤で引越ししてきたひと。「ふくしまマ マの会きびたん 'S」は、避難や転勤のため福島県から仙 台市に転入してきた母子の集まりです。

子育て支援団体の一般社団法人マザー・ウイングが、 福島から来た母親たちの交流の場をつくろうと2012年 5月から活動を始めました。

仙台に移住して2年目の女性は「放射線量については 気持ちの問題だと思っていますが、夫と相談して子ども のために引っ越しました。でも、避難者という意識は持っ ていません」と話します。また避難生活が5年に及ぶと言 う女性は「長女を出産後落ち込んでいた気持ちが、『きび たん 'S』に参加するようになって"この子をちゃんと育て ていこう"と前向きになれた |と出会いに感謝します。

マザー・ウイングはそんな母親たちの気持ちにずっ と寄り添ってきました。「皆さんそれぞれ地域のコミュ ニティに溶け込んでいますが、福島から避難して来た ことを進んで話すわけではありません。その点、ここに 来れば避難生活のことをオープンに話せるし、一人じ ゃないことが分かって安心できるんだと思います」と スタッフの土田千鶴子さんは言います。

今年の3月11日で震災発生から5年になります。親戚 から"もう戻ってきたら"と言われて悩んだり、自宅を 再建して福島に戻る知人を見て"私はまだ何も決まっ ていない"と焦ったりする母親が増えるのではないか と、土田さんは心配しながら見守っています。

「きびたん 'S」に参加するお母さんは「前向きに頑張 っているけれど問題が解決したわけではない。個人で できることには限りがある。支援を続けてほしい」と話 していました。

福島から全国への県外避難者は43.270人(※)。これから も、福島で被災した人たちの気持ちを尊重した取り組み が必要です。※「福島県から県外への避難状況」平成28年2月1日更新(福島県)



「地域のボランティアを含めて 長く支援を続けていきたい」。 左からマザー・ウイングスタ ッフの土田千鶴子さん、ボラ ンティアの善積則子さんと大 西亜沙子さん、マザー・ウイ ング理事の小川ゆみさん。



2月の集まり。 子どもを見守 りながら母親 たちもリラッ クス。

情報提供/みやぎ生協

△≒ 奈良県生協連第 27 期通常総会開催について

当会 定款第49条にもとづき、第27期通常総会を下記の通り、開催致します。

記

1. 日 時 2016年6月25日(土) 10:00~12:30

2. 会 場 奈良ロイヤルホテル 奈良市法華寺町 254 - 1 TEL: 0742 - 34 - 1131

3. 議 案

第1号議案 2015年度事業報告・

第3号議案 役員選任の件

決算関係書類承認の件 第4号議案 役員報酬決定の件

第2号議案 2016年度事業計画及び 第5号議案 議案決議効力発生の件

予算案決定の件

4. 代議員の選出について

会員規約第3条及び第4条にもとづき、代議員は、会員ごとに定める選出方法により選出し、 会員生協の定数は3人とします。

奈良県生活支援サービス・活動連絡会 第1回会員交流会が開催されました

「地域生活を支える助け合いの活動とごれから」 をテーマに交流

昨年8月に発足した奈良県生活支援サービス・活動連絡会の第1回会員交流会が3月7日奈良県社会福祉総合センターで開催されました。連絡会は地域のつながりを再構築しながら支え合うサービスや活動に取り組む住民の福祉推進組織やボランティア団体、民間事業者、社会福祉協議会、生協など、多様な団体・個人が参画し、お互いの経験やノウハウを学び合い、地域発・実践者発・現場発の活動実践を交流し豊かな広がりを目指しています。交流会には20団体、33名が集い、地域生活を支えるたすけあいの活動について交流しました。



趣旨:経過報告 奈良県生協連 辻専務

はじめに、「地域生活を支える活動の今とこれから」のテーマで、「つるまい団地見守りネットワーク会 (奈良市)」「ボランティアグループ花水木 (大和高田市)」「NPO法人きなり (下北山村)」の3つの団体からの活動報告の後、グループに分かれてカフェトークを行いました。

その後、「活動から見える気づきと課題」をテーマに、活動を進めるうえで気になることを出し合い、ワールドカフェ方式*で解決のためのヒントや工夫をわかちあいました。「活動者、同志をふやしたい」「助けてと言えない人が心配」「活動を知ってほしい」「活動の財源をどうするか」「リーダー後継者の育成」「つながりのない男性が心配」などが話題なり、それぞれのテーブルで情報と意見交換が行われ有意義な交流の時間

となりました。※何人かの会議での討論のやり方の一形式



リレートーク



会場の様子



活動を進めるうえで気になること



活動の広がりに向けて

(13) 2016年4月号

地方消費者グループフォーラムin和歌山

2月8日(月)和歌山市プラザホープで開催

毎年度このフォーラムは奈良県生協連も実行委員会に参加して運営と企画をすすめています。今回は『学んで、気づいて、つながって ~すべての地域で安心してくらしていくために~』をテーマに、197人の消費者や専門家などが参加し意見交換しました。恒例の「壁新聞交流会」には17団



体が活動報告を展示し、それぞれの壁新聞を前に参加者同士の活発な情報交流が行われました。

全体会では、板東久美子消費者庁長官の報告の後、壁新聞出展団体のリレー報告があり、NPO 法人なら消費者ねっとの報告や「ざ・ひめみこ」による寸劇をはじめ多彩な活動が次々に紹介され ました。また、今日のテーマについて考える事例として和歌山県、消費生活サポーター、NPO法 人消費生活サポートねっと和歌山の実践報告や寸劇実演などがありました。そのあと、グループに 分かれ地域で安心してくらしていくための取り組みについて話し合いました。日頃交流できない他 府県の活動の様子を知ることもでき、参加者にとって意義深い時間となりました。

奈良弁護士会主催・NPO法人なら消費者ねっと共催

「ストップ!迷惑勧誘」シンポジウム

1月16日(土) 奈良弁護士会館

「突然自宅に訪問販売が来て困った」「勧誘の電話がしつこくかかってくる」など迷惑勧誘の問題を広く市民に知って考えてもらおうと、奈良弁護士会となら消費者ねっとがシンポジウムを開催しました。

はじめに薬袋真司弁護士による講演「不招請勧誘規制に向けて ~勧誘の事前拒否制度を中心に」、次に山本健司弁護士による報 告「消費者契約法改正と今後の課題について」があり、グループ あんあんが電話と訪問の連続攻撃を受ける高年男性を描いたコント「ええ加減にして~不招請勧誘」を上演しました。また、消費 生活相談員中村恭子さんが迷惑勧誘の事例紹介を行い、高齢者の 構成比が大きい奈良県の実態と新聞購読や修理業者などの勧誘事 例を説明しました。なら消費者ねっと北條正崇理事長は「消費者 被害の撲滅を目指して活動している。不招請勧誘は消費者にとっ て『百害あって一理なし』。規制の実現を目指す活動に諸団体と 連携しながら引き続き参加していきたい」と意見を表明しました。



グループあんあんの寸劇



なら消費者ねつと北條理事長

2016年4月号 (14)

意見書を提出しました

◆「電力の小売営業に関する指針」案に対する意見書 提出先:経済産業省電力取引等委員会事務局取引監視課 主な内容:電源構成の開示の義務化、放射性廃棄物排出量の開 示、ゼロエミッション電源の表示の再考

- ◆「第2次奈良県エネルギービジョン」案に対する意見書 提出先:奈良県 地域振興部エネルギー政策課 主な内容:世界情勢に「パリ協定」に関する記述の追加要望、 エネルギーを介した横断的な組織で地域振興をできる体制 づくりの要望、未利用エネルギー研究の大学などの研究機関 との連携、省エネ・節電対策の事業所への具体的な支援
- ◆奈良県環境総合計画(2016 ~ 2020)(案)に対する意見書 提出先: 奈良県くらし創造部景観・

環境局環境政策課きれいに暮らす奈良推進係 主な内容:「パリ協定」の記載の追加、「低炭素社会の実現」プロジェクトの位置づけをもっと上位に、奈良らしい景観にとっての「林業」を位置づけること、レジ袋有料化の記載

◆奈良県域地域福祉計画(案)に対する意見書

提出先:奈良県健康福祉部地域福祉課 主な内容:幅広い年代や層の交流と支援、地域福祉に参加する主 体への協同組合の位置付け、地域包括ケアシステムにおける「医 療」との連携促進、住民自身とくに元気な高齢者の参加の促進

野迫川村観光局 キックオフフォーラム

3月19日桜井市立図書館で、(一社)野迫 川村観光局キックオフフォーラム「国・県・ 企業・NPOの全セクターの協働での奈良県 の活性化策について」が奈良NPOセンター 主催、近畿労働金庫・奈良県生協連の協力で 開催されました。奈良NPOセンターからの 設立経緯の説明の後、奈良県南部東部振興 課、ならコープ、近畿労働金庫から取り組み 報告が、国土交通省近畿運輸局、経済産業省 近畿産業局、農林水産省近畿農政局から補助 事業等の紹介がそれぞれありました。「これか らの奈良県内での取り組みとセクター間協働 と地方創生について」をテーマにクロストー クが行われ、日本一人口は少ないけれども自 然豊かな野迫川村を元気にしていくための意 見が活発に交わされました。



奈良県消費者教育推進計画(平成28~30年度)が策定されました

本年4月に奈良県消費者教育推計画が策定されました。自ら考え行動する自立した消費者を育成するため、「奈良県の風土や県民性が活きる消費者市民社会の形成」を基本理念に、市町村、消費者団体、企業等様々な担い手と連携しながら消費者教育を推進する指針と位置づけられています。概要を簡単にご紹介させていただきます。

□消費者教育関する現状と課題

高齢化と単独世帯の増加に伴い高齢者に関する相談件数も増加、奈良県でも4割を占めています。また20~30歳代ではインターネットトラブルが目立っています。県民の7割が消費者問題に関心を持っていますが、学校での消費者教育は教材の充実や時間割などが課題となっています。また、県外就業率が高く県外で買い物する機会が多いことや悪質商法に狙われやすい環境があることなどが、奈良県民の特性となっています。

□4つの達成目標

目標 I 多様な場における消費者教育の環境の

目標皿 消費者教育・啓発を担う人材が育つ環

境づくり

目標II 連携と協働による消費者教育・啓発の 活性化 目標IV 自立した消費者や消費者市民社会の 形成に寄与する消費者の育成

□今後の取り組みの具体例として次のことが挙げられました(一部を抜粋)

- ●幼稚園・保育所向けの消費生活出前講座
- ●小・中・高生及び保護者対象のインターネット 安全講習会の開催
- ●県内大学と連携した消費生活講座の実施や啓発 教材の作成
- ●消費者団体等と協働した消費者学習会の開催
- ●消費者団体の育成

- ●食品生産現場を見学し意見交換を行う「体験型 リスクコミュニケーション」の開催
- ●介護・福祉サービス事業者に対する講座・研修 への支援
- ●高齢消費者・障がい消費者被害防止情報交換会の実施
- P T A や子育て支援団体等に対する講師派遣、 外部人材の活用支援

県連日誌

1月

4日 新年県庁等ご挨拶

12日~ 全国政策討論集会 13日

奈良弁護士会主催シンポジ ウム

温暖化防止ネットワーク関 西主催「COP21報告会」

28日 関西地連運営委員会

28日 県連活動推進会議

奈良県消費生活審議会消費 <mark>者教育推進部</mark>会及び審議会

2月

近畿版広域地震対応マニュ アル検証会

講演会「電力システム改革 6日 と再生可能エネルギー」

地方消費者グループフォー 8日 ラム in 和歌山

「地域協働再エネ事業を目 指す研究会」

13日 見守りシンポジウム

適格消費者団体連絡協議

プロー会・適格団体をめざす団体 14日 の人 の会議

関西地連地域とつながるフォ 17日 ーラム

19日 生協総研公開研究会

奈良県食に関するリスクコミ ユニケーション

3月

地域未来エネルギー奈良主 1日催「ならエネルギーフォー ラム

消費者庁・厚労省・農水省 2日 主催食品のリスクコミュニ

雪印メグミルク企業倫理委 員会消費者部会

4日~ 自然エネルギー学校・なら

5日 2015 (西粟倉村見学)

ケーション

奈良県生活支援サービス・ 活動連絡会

近畿農政局と近畿地区生協府 県連協議会との意見交換会

10日 会員生協役職員研修会

10日 奈良県生協連理事会

15日 COP21報告会

野迫川村観光局キックオフ 19日 フォーラム

25日 近畿地区生協府県連協議会

アースデー 2016 in なら

つなげよう広げようアースデーの"わ"(輪・和・環)

○開催日時:平成28年4月24日(日) 10時~15時

○開催場所:国営飛鳥歴史公園 石舞台広場

容:「吉野共生プロジェクト」「菜の花エコプロジェクト」、パネル展示、模擬店、 〇内

環境関連団体など出展、吉野特産物コーナー、体験コーナー、資源循環型コーナー、

(主催: ならコープ フリーマーケット 共催:奈良県生協連)

見ています。 娘の就活が始まっています。 ろに就職 にやってくることを願うばかりです。 桜が舞う季節になりました。 するの キラキラした未来が彼女 ひやひやしながら どんなとこ

がら地 た方がい 事もあ 書?として支えます。 雇用でまだ働けるものの、 しました。 夫が新年度 元女性ネット る いよとお勧 0) 0 度定年退職ですが、 地域デビュ 地 元自治会の会長 ワ め しました。 クを生か これから してお 0) 再

画自賛?)。次年度は、 県連の活動の歩みがよくわかります(自 記事を見ていると時々の情勢と奈良 共生も100号となりました。 1号から揃えられるかな?(和 保存版を整理 過去

まま女子二人の同居生活です。 家族とのひとときですね。 ありようも多様化しましたが、 何かほっとできるのは 離れて暮らしていた娘が帰ってきま おたがいあまり干渉せず 食事時間も食べるものもす 同居 人い それ 家族 n 出 気







奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2 TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043 URL http://www.narakenren.coop/